

介護を生活の場に

宮城県認知症介護指導者 齋藤 武

キーワード:「保険外」「遠くの家族より、近くの知人」
「IRUTOKO(いるとこ) IKUTOKO(いくとこ)
SURUTOKO(するとこ)」「うたごえ喫茶」

活動の概要(活動の主体:法人)

【活動目的】

町のコミュニティの中に、年を取ることや介護について気軽に集えて知り合えて学べる場があったら、少なくともそこに関係する人たちの人生が良いものになるのではないかと考え、コミュニティカフェとして歌声喫茶を開店した。

【活動内容】

「IRUTOKO(いるとこ) IKUTOKO(いくとこ) SURUTOKO(するとこ)」何をして、何もしなくてもいい。居ることで存在を感じられるところ。あそこに行けば誰かいるかな、暇だから行ってみようかなと思えるところ。一人ではやらないけど、ここにきて何かをするところ。これらをモットーにしている。

活動のきっかけ、背景(法人としての立場で)

GHで長く務めてきたが、介護の現場がひと昔前に逆行してきているように感じた。介護の現場を変えるよりも、一般の人の意識を変えていくほうが必要で、早いのではないか。それには自分から「こうしていきたい」「こういう老後は過ごしたくない」など、自分のことを話し合える場所があったらいいと思った。認知症カフェなどでは一般の人からするとハードルが高いと思われ、生活から切り離されず誰でも来やすい場があったらいいのではと考えた。

活動の経過と成果(指導者として・法人代表としての立場で)

【活動の経過】

コミュニティカフェとして場を作りたいと思ったが、ボランティアとしてやっていくことはできないのでどう収入を得るかと考えたとき、歌声喫茶を思い出した。そして、認知症のかたでも歌を楽しめることを知っていたのでこれをやろうと思った。伴奏者はボランティアで高齢者施設などを回っている方たちに協力してもらおう。お店のコンセプトは「IRUTOKO IKUTOKO SURUTOKO」何をして、何もしなくてもいい。居ることで存在を感じられるところ。あそこに行けば誰かいるかな、暇だから行ってみようかなと思えるところ。一人ではやらないけど、ここにきて何かをするところ。まあ、歌でも歌いましょう！という場所にする。人に迷惑をかけてはいけない。という考えが強すぎる社会。「申し訳ない」を「ありがとう」と言い合える関係を作っていきたいと思う。20年3月から場所を探し、町や地域の方がたに説明をさせてもらおうと、皆さん共感してもらえます。誰もがニーズとして持っている。あとはやり方だと感じる。いかにこの理念を形にしていけるかがこれから。

【活動の成果】

高齢化は町の課題である。介護家族や関係機関からは「こういう所を作ってくれて『ありがとう』」と声をかけられた。「ありがとう」と言われることは正直予想していなかった。確実にニーズはあると感じた。

今後の展望

人が集まることで情報も集まり、介護(認知症)で困っている人の情報も入ってくる。そこで近隣の人や気にかけてくれる人、協力者また本人と一緒に考えていくことで他人事を自分事としてとらえ、また、経験値を積むことで自分の生き方を考え、話していけるようになったら、希望の見られる地域ができる。そして町の人たちが主体的に「お互い様」「おかげさま」の関係性を築き、支えあえるコミュニティが形成できる。元・現介護員向けに集まりを企画し、介護職員が介護事業所内でのみ活動するのではなく、事業所から出て町の中で活動できるようにしていきたい。